

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

◆2015 年度日本線虫学会第 23 回大会（中部大学大会）のご案内（大会事務局）	1
◆事務局から	5
学会メールアドレスの変更	
◆記事	
自己紹介と抱負（村田岳）	5
カリフォルニア訪問レポート（小澤壮太）	6
スコットランド滞在記（鈴木崇之）	8

2015 年度日本線虫学会第 23 回大会 （中部大学大会）のご案内

大会事務局

1. 大会開催にあたり事務局から

本大会では例年以上に多くの学生達から大会及び懇親会へお申込み頂きましたし、初めての方、農家の方、異分野の方にもご参加頂けることになりました。また、3日（木）の午後に予定しておりますシンポジウム「異分野を知り線虫学の魅力を知る」では、ふだん線虫学会に参加されない異分野の専門家3名にお話を伺う機会を設けることができました。異分野の方から学ぶことは、既存の枠にとらわれない、今まで思いもしなかった線虫学の可能性を再認識するきっかけになるはずですし、学生や若手研究者が次の次元へと飛躍する勢いにもなるかと思っております。さらには、学生や異分野の方たちに対して線虫学の魅力を伝えることができるまたとないチャンスとな

るでしょう。

参加者の皆様におかれましては、発表会及び懇親会で学生達（名札を見て学生であるとすぐわかるようにしておきます）にたくさんお声をおかけ頂き、暖かくご指導頂きますようよろしくお願いいたします。また学生達は、ふだん話ができない他大学の先生や研究者の方々に対して、積極的に話しかけてみてください。一生懸命で元気な学生とともに、線虫学をとおしてサイエンスを楽しくすすめてゆきたいと思っております。

2. 開催日程

2015 年 9 月 2 日（水）～ 4 日（金）

◇ 9 月 2 日（水）

9:00～12:00：評議員・編集委員会

13:00～16:00：一般講演

16:00～17:00：総会

18:00～20:00：懇親会

◇ 9 月 3 日（木）

10:00～12:00：一般講演

13:30～16:00：線虫学シンポジウム
16:00～17:00：ポスターセッション
18:00～：夜のグレーター・ナゴヤ（自由行動）

◇9月4日（金）

10:00～12:00：一般講演

3. 大会会場

中部大学三浦記念会館（名古屋キャンパス） 6階大ホール（口頭発表会場）、610講義室（ポスター発表会場）

〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田 5-14-22

JR 中央本線「鶴舞」駅名大病院口（北口）下車すぐ（ダッシュしたら30秒）

地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100m

<http://www3.chubu.ac.jp/organization/facilities/nagoya/>

4. 懇親会会場

名古屋ビール園「浩養園」

<http://www.kouyouen.jp/>

〒464-0858 愛知県名古屋市中区千種区千種 2-24-10

中部大学三浦記念会館から歩いて10分ほど

TEL：052-741-0211

5. 大会プログラム

*注：ニュース発行時には座長が決まっています。決まり次第学会HPでお知らせします。

9月2日（水）

13:00～16:00 一般講演（口頭発表）

13:00 O-01 ○勝田あかね¹・豊田剛己¹・Yu Yu Min²・The Thiri Maung²（¹東京農工大・²イエジン農業大）ミャンマー中部に分布する植物寄生性線虫の同定と定量

13:15 O-02 大桃沙織¹・岩堀英晶²・佐藤武史¹（¹長岡技術科学大・²龍谷大）DNAシーケンスを用いた有機圃場と慣行圃場の線虫相比較

13:30 O-03 ○岡田浩明（農環研）有機・自然農法のリンゴ園の土壤動物相の

特徴

13:45 O-04 ○北上雄大・松田陽介（三重大院生資）海岸クロマツ林のリター添加が土壤線虫群集に与える影響

14:00 O-05 ○荒城雅昭¹・伊藤崇浩²・小松崎将一²（¹農環研・²茨大農）不耕起栽培圃場の土壤線虫はなぜ多様かー土壤表面の粗腐植層の重要性

14:15 O-06 ○成沢君¹・豊田剛己¹・山下一夫²（¹東京農工大・²青森産技セ野菜）Real-time PCR法を用いたニンニク腐敗の病原線虫イモグサレセンチュウの診断技術の確立

14:30 O-07 ○堀越義広・安部豊・久井潤也（横浜植防）輸入植物検疫における分子生物学的手法を用いた重要線虫の発見事例

14:45～15:00 休憩

15:00 O-08 ○Sato, K.^{1,2}・Yoshiga, T.^{1,2}・Hasegawa, K.³（¹Saga Univ.・²Kagoshima Univ.・³Chubu Univ.）Phenotypic analysis in attenuated virulence mutant of *Photorhabdus luminescens*

15:15 O-09 ○奥村悦子^{1,2}・竹内祐子¹・杉拓磨²（¹京都大院農・²京都大 iCeMS）*C. elegans* 誘引物質に対する *C. japonica* の誘引反応

15:30 O-10 ○Vicente, C.S.L.^{1,2}・Nascimento, F.X.²・Ikuyo, Y.¹・Peter, C.³・Mota, M.²・Hasegawa, K.¹（¹Chubu Univ.・²Univ. Évora・³James Hutton Inst.）Genomic analysis of nematode-bacteria interaction in Pine Wilt Disease

15:45 O-11 Dayi, M.¹・田中龍聖¹・神崎菜摘²・菊地泰生¹（¹宮崎大・²森林総研）Genome comparisons of five *Bursaphelenchus* species

16:00～17:00 総会

18:00～20:00 懇親会

会場：名古屋ビール園「浩養園」

9月3日（木）

10:00～12:00 一般講演（口頭発表）

10:00 O-12 ○立石靖¹・上杉謙太¹・岩

- 堀英晶^{1,2} (¹農研機構・²現：龍谷大)
エンバク新品種「スナイパー」の線虫寄生適合性
- 10:15 O-13 ○東岱孝司(道総研十勝農試) 北海道内のダイズシストセンチュウ個体群に対するアズキ遺伝資源の抵抗性
- 10:30 O-14 ○奈良部孝(北海道農研) ジャガイモシストセンチュウの圃場内根絶を確認するための手法の検討
- 10:45 O-15 ○串田篤彦^{1,2}・近藤則夫² (¹北農研・²北海道大) 線虫を数えずにその個体数を推定する簡易手法
- 11:00 O-16 ○Ozawa, S.¹・Sriwati, R.^{1,2}・Morffe, J.³・Vicente, C.S.L.¹・Shinya, R.⁴・Hasegawa, K.¹ (¹Chubu Univ.・²Syiah Kuala Univ.・³Inst. Ecol. Sistem.・⁴Caltech) Morphological, molecular and developmental characterization of the two thelastomatid nematodes parasite in *Periplaneta americana*
- 11:15 O-17 ○浴野泰甫・竹内祐子(京大農) 透過型電子顕微鏡を用いたマツノザイセンチュウ角皮構造の観察
- 11:30 O-18 ○Shinya, R.・Sternberg, P.W. (HHMI and California Institute of Technology) Odor-mediated mate choice in a hermaphroditic and gonochoristic *Bursaphelenchus* species
- 11:45 O-19 ○相川拓也¹・中村克典¹・市原優²・前原紀敏¹・水田展洋³ (¹森林総研東北・²森林総研関西・³宮城県) 東日本大震災の津波被害により枯死したマツから脱出したマツノマダラカミキリの保持マツノザイセンチュウ数
- 12:00~13:30 昼食休憩
- 13:30~16:00 線虫学シンポジウム：異分野を知り線虫学の魅力を知る
(オーガナイザー：長谷川浩一・新屋良治)
- 13:30 長谷川浩一(線虫学会 J4s) はじめに
- 13:40 S-01 市橋泰範(理研) 植物の進化発生学における比較トランスクリプトーム解析
- 14:20 S-02 西本寛(愛知大) 放射性炭素年代測定でわかるコトわからないコト
- 15:00 S-03 浴俊彦(豊橋技科大) 線虫 *C. elegans* の RNA 干渉機構とヘリカーゼファミリー
- 15:40 新屋良治(線虫学会 J4s) 総括
- 16:00~17:00 ポスターセッション
16:00~16:25 P-01 から P-07 コアタイム
16:25~16:50 P-08 から P-14 コアタイム
16:50~17:00 自由時間
- P-01 ○秋庭満輝・神崎菜摘(森林総研) ヒゲナガカミキリおよびマツノマダラカミキリからの *Bursaphelenchus firmae* および *Diplogasteroides andrassyi* の分離
- P-02 ○Ikuyo, Y.¹・Sriwati, R.^{1,2}・Ozawa, S.¹・Sato, K.^{3,4}・Hasegawa, K.¹ (¹Chubu Univ.・²Syiah Kuala Univ.・³Saga Univ.・⁴Kagoshima Univ.) Plant pathogens *Ditylenchus dipsaci*, *Fusarium avenaceum* and *Alternaria* sp., isolated from dieback of *Phlox subulata*
- P-03 ○梅崎悠帆・松木耀・吉賀豊司(佐賀大) ビーカーを用いた簡易トマト水耕栽培によって得られたサツマイモネコブセンチュウ 2 期幼虫の感染性
- P-04 ○小野雅弥・吉賀豊司(佐賀大) *Caenorhabditis elegans* の昆虫体内で発育
- P-05 ○中江和紀・吉賀豊司(佐賀大) PCR によるニセフクロセンチュウの生殖様式系統の簡易識別法
- P-06 ○原口俊輔・吉賀豊司(佐賀大) 9 種ニンニク病原糸状菌上におけるニセネグサレセンチュウおよびイモグサレセンチュウの増殖
- P-07 ○吉賀豊司(佐賀大) ベニツチカメムシ幼虫からの *Caenorhabditis japonica* の離脱
- P-08 藏之内利和¹・○百田洋二² (¹作物研・²元中央農研) サツマイモネコブセンチュウ抵抗性検定圃場における SP レースの混在
- P-09 ○鈴木智範・山野秀真(大分農林水研農業) 大分県におけるナンヨウネコ

ブセンチュウの発生

P-10 ○田中克^{1,2}・神崎菜摘³・相川拓也⁴・田中龍聖^{2,5}・竹内祐子⁶・福田健二¹

(¹東京大・²学振・³森林総研・⁴森林総研東北・⁵宮崎大・⁶京都大) マツノザイセンチュウ T4 系統及びその純系株における分散型 III 期関連形質の調査

P-11 ○田淵宏朗¹・小林晃¹・門田有希²・謝花治³・翁長彰子³・岸本和樹²・田原誠²・岡田吉弘¹ (¹九沖農研・²岡山大・³沖縄農研) サツマイモ品種「ジェイレッド」におけるサツマイモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝解析

P-12 ○Hamaguchi, T.¹・Sato, K.^{2,3}・Yamashita, Y.¹・Ozawa, S.¹・Yoshiga, T.^{2,3}・Hasegawa, K.¹ (¹Chubu Univ.・²Saga Univ.・³Kagoshima Univ.) Insecticidal activity of the entomopathogenic nematode *Heterorhabditis bacteriophora* against three *Periplaneta cockroaches*

P-13 ○保谷剛志¹・田中克^{1,2,3}・浴野泰甫¹・竹内祐子¹ (¹京都大院農・²東京大院農・³学振) マツノザイセンチュウ組換え近交系の孵化率の増殖力への寄与

P-14 ○東岱孝司 (道総研十勝農試) 北海道内のダイズシストセンチュウ個体群に対するアズキ遺伝資源の抵抗性 (口頭発表と同じ)

18:00~ 夜のグレーター・ナゴヤ (自由行動)

9月4日 (金)

10:00~12:00 一般講演 (口頭発表)

10:00 O-20 ○田中龍聖¹・神崎菜摘²・菊地泰生¹ (¹宮崎大・²森林総研) オオバイヌビワから検出された *Caenorhabditis* 属線虫

10:15 O-21 ○神崎菜摘 (森林総研) *Neodiplogaster acaloleptae* の eurytomatous form に関して

10:30 O-22 ○小坂肇¹・神崎菜摘² (¹森林総研九州・²森林総研) ヤツバキクイムシ及びカラマツヤツバキクイムシから検出された *Contortylenchus* 属

10:45 O-23 ○植松繁^{1,2}・栗原孝行²・

八尾充睦¹・藪哲男³・古賀博則² (¹石川農林総研・²石川県立大・³石川県農林水産部) レンコンネモグリセンチュウ *Hirschmanniella diversa* のレンコン若芽組織内への侵入初期過程の電顕観察

11:00 O-24 ○高木素紀・久恒和雅・鹿島哲郎 (茨城農総セ園研) レンコンネモグリセンチュウ *Hirschmanniella diversa* の耐乾燥性と乾燥を利用した防除の可能性について

11:15 O-25 ○王晓曼¹・豊田剛己¹・加渡英司²・斉藤仁³・伊藤喜誠⁴・高田敦之⁴ (¹東京農工大 BASE・²君津市 JA・³東松山農林振興セ・⁴神奈川県農業技術セ) 首都圏のエダマメ圃場におけるダイズシストセンチュウの発生状況および緑肥による防除

11:30 O-26 ○武田藍・加藤正広 (千葉農林総研) 生育中薬剤灌注処理による輸出用植木のオオハリセンチュウ密度低減対策

11:45 O-27 山下一夫・青山理絵・対馬由記子 (青森産技セ野菜) 青森県で栽培されるヤマノイモに発生するセンチュウ害

6. 発表者へのお願い

本ニュースに記載致しましたプログラム等に不備がないかをご確認いただき、何かありましたら大会事務局までご連絡をお願いいたします。

一般口頭発表は1題あたり12分の発表+3分の質疑応答、計15分以内を予定しております。進行に影響が出ないよう、時間以内でのご協力をお願いいたします。

PC プロジェクターの利用環境は Windows 7、対応ソフトは Microsoft Power Point 2013 を予定しています。受付にて発表ファイルを受け取りますので、できるだけ早いご提出および動作確認をお願いいたします。ファイル名は「01 長谷川」というように、発表順番と発表者名を記録してご提出ください。その際、USB メモリおよび CD/DVD にて受付いたします。大会

が終了したのち、コンピュータに記録した皆さんの発表ファイルはすべて消去いたします。

ポスター発表用ボードは1題あたり 900×1,800 mm ですので、これに収まるようポスターを作成してください。すぐにポスター掲示ができるよう、初日よりポスター会場を開放しております。

※口頭発表、ポスター発表とも、本大会の講演要旨は、日本線虫学会誌第 45 巻 2 号に掲載する予定となっております。要旨の修正が必要な場合は、9 月末日までに下記宛に修正した原稿をお送りください。

〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘 1 番地
北海道農業研究センター 生産環境研究領域内

日本線虫学会誌編集幹事 伊藤賢治

TEL: 011-857-9247

E-mail: kenjiito*affrc.go.jp

7. 大会事務局

中部大学応用生物学部環境生物科学科
長谷川研究室

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

TEL : 0568-51-9864

FAX : 0568-52-6594

E-mail: : hasegawaelegans*hotmail.com

大会実行委員 :

長谷川浩一 (代表) (中部大学)

津田 格 (岐阜県立森林文化アカデミー)

新屋良治 (HHMI and Caltech)

[事務局から]

学会メールアドレスの変更

2015 年 6 月から学会のメールアドレスを変更しました。学会事務局へのお問合せは、shomu*senchug.org 宛てにお送りください。

[記 事]

自己紹介と抱負

村田 岳 (九州沖縄農研)

初めまして。今年度、農研機構に新規採用されました村田岳むらたがくです。4 月から九州沖縄農業研究センター線虫害研究グループ (熊本県合志) で勤務し、植物寄生性線虫を対象に研究を行っています。出身は大阪府で、学部時代は滋賀県、大学院時代は奈良県と関西圏を転々としてきました。学部では植物の糖鎖を対象に、へそまがりな精密機器たちを使ってひたすら抽出作業に勤しみ、大学院では植物の DNA やら RNA やらをいじくる日々を過ごしてきました。就職活動には、研究室こもりきりの生活から脱出するぞという意気込みで臨み、苦戦しつつもなんとか現在の職場に落ち着くことができました。配属先が決まったのは今年の 2 月で、右も左も分からないまま身一つで熊本へ。気付けば就職して数ヶ月が経とうとしています。ようやく生活も落ち着いてきたかなと感じている今日この頃です。熊本訛りに揉まれ、そして、関西では経験したことのない雨と湿気に耐えながらも、最近購入した軽自動車ですらドライブに出かけるなど楽しく過ごしています。

「線虫」に関しては全くの素人で、多分に漏れず「センチウ? ああ、あれでしょう。C. エレガンス」という認識しかしていませんでした。顕微鏡観察にもそれほど馴染みもなく、ピントを合わせるので一苦労。合ったところで、残像のように映る無数の線虫を区別できず、対象線虫を数えることすらままならない状況でした。観察を続ける内になんとか主立った特徴には気付けるようになりましたが、プロの目になるには道のりは長そうです。ただ、今まで研究素材は植物が中心でしたので、くねくね、

もぞもぞと動きのある線虫は見ているだけでも面白い、というのが正直な感想です。さっそく圃場試験にも携わり、研究室こもりきりの頃とは一味違った研究生活を送っています。また、畑作業の練習を兼ねて、試験圃場の一面を使い家庭菜園のようなことも初めており、暇を見つけてはハサミや草掻きを持って畑へ出かけています。当面は技術の習得や情報収集で精一杯かとは思いますが、線虫を研究対象としてどう扱おうかと日々頭を悩ませています。今後は田畑の線虫を中心とした研究を行うこととなりますが、個人的には海や極地などの線虫にも少し興味を惹かれます。研究室にとって久々の新人だそうで、上杉さん（現在の上司）が入所して以来約 10 年ぶりとのことでした。本記事の参考にと線虫ニュースのバックナンバーを拝見していたところ、出てきました上杉さんの自己紹介記事。そして末筆の「農業線虫業界では久しぶりの新人と聞き、」という一文。……いやはや、いったい次の新人はいつやってくるのでしょうか。

自己紹介に加えて抱負も、ということだったので、これからの目標など簡単に書かせて頂きます。顕微鏡で線虫を眺め、被害作物を目の当たりにする中でその多様性や農業における線虫研究の重要性を実感するようになりました。やはり、線虫防除技術の開発は精力的に行うべき重要課題だと感じています。学生の頃は専ら基礎研究だったので、実用性という観点で研究をしていませんでした。線虫に限った話ではありませんが、これからは農業現場で直接役に立つ技術開発という意識を持って研究に取り組んでいきたいと思っております（ただ、個人的な興味のそそられる、基礎的な研究テーマも併せて見つけたいところです）。

余談になりますが、先日、右目に小さな虫が飛び込んできました。調べてみたところどうやらメマトイというハエらしく、時に動物の眼に寄生する線虫（東洋眼虫）を媒介するのかなんとか。ペットの犬や猫の病気として有名だそうで、希にですが、ヒトの眼に寄生することもあるそうです。改めて、線虫の生息環境の多様さに感心しました。自分の右目は大丈夫かなと内心ビクビクしつつも、身をもって体験するのなかなか面白いのではと毎日眼の中を観察しています。

長くなりましたが、これからよろしくお願ひします。

カリフォルニア訪問レポート

小澤壮太（中部大）

はじめまして、中部大学応用生物学研究科博士後期課程 1 年の小澤壮太と申します。現在、指導教員である中部大学の長谷川浩一先生のもとで、ゴキブリとその寄生性線虫の寄生・共生関係の進化と外来種問題についての解明を目標に研究をおこなっております。今回、2015 年 6 月 23 日～28 日まで、アメリカ合衆国、カリフォルニア州ロサンゼルスで開催された The 20th International *C. elegans* Meeting に参加し、自身の研究について発表をおこないました。また学会終了後に、新屋良治博士が研究しているカリフォルニア工科大学の研究室を訪問しました。それらについての報告をさせていただきます。

国際会議への参加は今回が 2 回目でしたが、英会話力が未熟なことから、アメリカ滞在中、終始緊張した訪問となりました。まず、羽田経由でロサンゼルスへ到着した後、翌日朝から会議が始まりました。

本会議では、モデル生物 *C. elegans* やそ

の他の線虫を用いて様々な研究をおこなう世界トップレベルの研究者たちが集まっており、ポスターと口頭発表を含めて 1200 題を超える演題があり、朝早くから深夜にかけて発表およびディスカッションが続きました。研究発表だけでなく、最終日には線虫関連のイベント（線虫 Art Show、Worm Variety Show など）もあり内容盛りだくさんの会議でした。私は 3 日目の

Development-Germline Development and Sex Determination のセッションで、ゴキブリ寄生性線虫の発生及び性比の偏りについての研究発表をおこないました。自身のポスター発表では、様々な分野の専門家が私の研究について興味を示していただき、今後ゴキブリ寄生性線虫の生殖様式を解明するために有意義なディスカッションをすることができたと思っております。2 年前に参



カリフォルニア工科大学へ訪問した際に置いてある大砲の写真：向かって左が筆者、右が研究室の先輩の佐藤一輝さん（この大砲について：カリフォルニア工科大学とマサチューセッツ工科大学がライバル関係にあり、それぞれが双方の大学の方角へ向いているそうです。）

加した第 52 回アメリカ線虫学会のときよりは英語での受け答えができたことが実感でき、うれしく感じました。

会議終了後、研究室の先輩である佐藤一輝さんとともに新屋さんと合流し、カリフォルニア工科大学を案内して頂き、また研究室の見学や研究員の方々とお話しする機会を作ってください、いろいろと見せていただいたり話を聞いたりして、充実した時間を過ごせました。この場を借りて、新屋さんやたくさんの方々に色々とお世話になったことに感謝致します。

会議での発表や訪問先でのお話とおして、これまで参加してきた大会では聞けなかった、私の扱うゴキブリ寄生性線虫そのものに関する鋭い質問がぶつけられました。私の扱う線虫にはまだまだ分からないことだらけであり、研究のやりがいのある素晴らしい線虫であるという認識を強くしました。それとともに、*C. elegans* を用いておこなわれている様々な研究分野の知識について不足していることも感じました。自身の分野を極めていくと同時に *C. elegans* を用いた研究についても勉強をしていきたいと強く思うようになりました。私はこれまで線虫学会をはじめ、様々な分野の大会に参加させて頂いておりますが、今後も積極的に異分野のセミナーや学会に参加・交流して、幅広い視点と柔軟性を身につけていきたいと再認識することができ、研究に対する意欲をさらに向上させることができました。最後に、あと 2 年と少し続きます博士後期課程の間に、自分の今後の進路を考えながら（もちろん研究を楽しみながら）頑張っていこうと思っております。これからもみなさんのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

スコットランド滞在記

鈴木崇之（九州沖縄農研）

農研機構の長期在外研究員として、9 月までの予定で英国エジンバラにある Scotland's rural college (SRUC) に留学していますので、その様子をお伝えします。

3 月、まだ寒い中、何とか業務の引き継ぎを終え、ばたばたと渡航しました。長旅でふらふらしながら着くと、お世話になる Bryan Griffiths 教授が立っていました。書籍が沢山詰め込まれたスーツケースを軽々ともってもらい、「これが英国紳士か」と実感しました。まずは職場の人の名前と研究の場所を覚えることから始まりました。農研機構に、新人として採用された時以来の気分でした。

留学先には、短期で来ている人も多いですが、普段顔をあわせるのは、研究者、テクニシャン、事務職員、学生等あわせて 50 人くらいでしょうか。普段の会話やメールは基本的に全員ファーストネームなので、とてもカジュアルです。私も、ファーストネームすら短縮されて「Taka」になっています。教授のことも、Griffiths 教授と言ったら笑われました。こちらの研究では、植物寄生性線虫の移動に寄主や土壌条件が及ぼす影響を、実験室レベルで見えています。これまで圃場試験を主に行ってきたので、小規模な実験には苦手意識があったのですが、払拭するのには、良い経験です。あと 2 ヶ月でどこまでいけるか（7 月に本稿は書いています）、がんばってみます。なお、研究・実験エリアは所属する Crop and soil systems group で共有になっており、土壌関係の実験に必要な基本的な装置は一通りそろっています。ただ、線虫学に特化した実験機器が常設されている部屋は、シストの検診を行っている部屋（農家さん向けに行

っているようです) くらいでしょうか。実験装置の稼働率はとても高く、テクニシャンの方がうまく調整しているようです。

学内での交流は、ラウンジでのお茶や昼食(お弁当の人が多い)が主です。英国でお茶と言えばアフタヌーンティーを思い浮かべる方も多いと思いますが、あれは観光客向けのもので、普段は自分でティーバッグに熱湯とミルクを注いで、がぶ飲みです。また、私の机は若手研究者や研修生12人の大部屋にあります。普段はそれぞれ真剣にパソコンに向かっていますが、時々ふとしたことで盛り上がっています。コーヒーの花が咲いたとか、ハチが入って来たとか。このへんは日本と一緒にですね。そういえば、海外ではSorryとは普段言わないと昔聞いたことがあります。こちらでは、常にSorry, Sorryと言って、互いに気づかいをしています。ドアは必ず開けて待っていますし、にこっと笑って挨拶とかも、皆します。楽しく仕事できるポジティブな空気を互いに作ることが、マナーなのでしょう。このことは、新しい環境になじめるか不安だった自分にとって、すごく安心できましたし、今の仕事のモチベーションにもつながっている気がします。私も残りの期間で少しでも英国紳士?になれたらと思います。他にも職場内では、自転車修理講習会があったり、Lawn Bowling(芝生の上で行う、カーリングみたいな競技)とか、Rounders(ソフトボールに似た競技)をしたりするようです。

ここからは、普段の生活について。レストランでは、中華スープ味の味噌汁とか、とんでもない物が出てくる時もありますが、シンプルな料理(Fish and Chipsなどは美味しいと思います。ただ、食生活が、気をつけないとポテトチップス、揚げ物、肉、

ケーキの繰り返しになってしまうので、何もしないと体重が激増します。従って、何かしら運動している人が多く、私も自転車に乗って海まで行ったり、目の前の公園を走ったりしています。学内でも例外ではなく、自転車のヘルメットをかぶった人とあちこちで遭遇します。結局は、研究者も健康と体力勝負だと思えます。また、スコットランドは「一日の中に四季がある」と言われ、なかなか良い天気が続きません。ひどい天気の日、「Welcome to Scotland!」と同僚に言われたくらいです。だからでしょう。皆太陽が恋しいようで、天気が良くなると、公園の芝生で、薄着でごろごろしている人をたくさん見かけます。

さて、今回渡航するまでは、送金、ビザ申請のやりとり(結局取得できず滞在が6ヶ月以内になったのですが)などで、慣れない事務書類仕事に追われました。わからないことも多かったのですが、幸運にも数年前同制度でスコットランドに行った人がいたので、相談できたことが実務上+それ以上に精神衛生面で、良かったです。英国の研究者ビザは、どの種別のビザに当てはまるのかの判断が難しい上、留学先の機関と国境管理局のやりとりが必要になる場合があります。従って、英国に研究留学する際は、ビザについて、かなり早い段階で、経験者や専門家に相談することをおすすめします。また、アパート探しでは、慣れない土地での物件探しの難しさが、よくわかりました。渡航後1~2週間で見つかると思っていたのですが、入居までに1ヶ月弱かかりました。最初はB&B泊でしたが、結局教授の家にも泊めてもらい、奥様や息子さんにもお世話になりました。もっともそのおかげで、英国での生活のやり方やプライベートも含む時間の使い方を実感できた

ことは、自分が生活するペースを作る上で、予期せぬ収穫になりました。

エジンバラは、日本人は少ないですが、海外の方は多い都市で、私のいまいちな英語への対応も慣れており、とても助かっています。街には、イタリア、スペイン、東欧諸国の方が多く、EU 内は自由に人が動いていることを実感します。ほどよく都会で、買い物にも困らず、海や山まで 30 分かからず行ける、暮らしやすい街です。さ

らに観光資源も豊富な上、夏のフェスティバルシーズンには、演劇や芸術のショーなどがあり、宿泊が困難になるほど賑わいます。街から離れば羊が草を食べる長閑な風景が広がっており、自然の中を歩くのも楽しいです。街中と郊外の写真をつけましたが、ぜひ観光に来ることをおすすめします。私も残りの期間、研究も生活も、両方楽しんでいきたいと思います。



エジンバラの街中（上）と郊外の様子（下）

[編集後記]

◆近年研究不正に関する話題が多い。今も職場でeラーニングによる「研究者行動規範教育」を受けている。「研究不正とはどういうものか」、「共同研究する際の心構えとは」などの解説を Web 上で読み、理解度のテストを受け、8割以上の正解を得ないと怒られるのだ(?)。解説を注意深く読んで理解しなければならない。正直面倒くさい。一方研究以外でも、大手家電メーカーの粉飾決算が記憶に新しい。不正を防ぐにはどうすればよいか?自分が思うに、業績評価や競争を厳しくし過ぎないこと、ではないだろうか?厳しすぎるから、追い詰められた者が不正に手を染めてしまうのだと思う。競争は研究や社会の発展に必要なのだが、あまりに厳しくし過ぎると不正を生み、暴力などにより社会を不安定にするとと思う。世界全体を見ても、IS 等によるテロなど、生まれた時点ですでに競争に負けている(格差や貧困の中に生まれた)者が引き起こしているように思える。どの程度まで競争を緩めれば良いのかの判断は簡単

ではないが、厳しすぎる競争は良くないと思う。

猛暑の中、本館から別棟に行くのもしんどいなあなどと思いつつ、つらつら書いてみた。

(岡田浩明)

◆今回は久しぶりに線虫学会に参加しようかと考えていたのですが、少し検討してからなどと思っているうちに、9月2日から3日にかけて岩手県松くい虫防除技術講習会の予定が入ってしまいました。大会事務局・実行委員の長谷川さん、津田さん、新屋さん、参加できなくてすみません。やはり思い立ったが吉日で、早めに発表を申し込んでしまうべきでした。実り多い大会になりますよう、盛岡から祈っています。

(前原紀敏)

2015年8月24日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 岡田 浩明

(ニュース編集小委員会)

国立研究開発法人 農業環境技術研

究所 生物生態機能研究領域

〒305-8604

茨城県つくば市観音台3-1-3

TEL: 029-838-8307

FAX: 029-838-8199

E-mail: hokada * affrc. go. jp

日本線虫学会ニュース第66号

ニュース編集小委員会

岡田 浩明 (農環研)

前原 紀敏 (森林総研東北)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター

〒305-8666

茨城県つくば市観音台 3-1-1

TEL: 029-838-8839 FAX: 029-838-8484

E-mail: shomu * senchug.org

URL: <http://senchug.org/>